未来型図書館の一日を、ひと足先に歩いてみよう

こまつリビングラボ　2026年11月1日

今日のプログラム

第1部　　未来型図書館の計画と、その舞台裏を知ろう

設計・運営の計画と、提案が生まれるまでの物語

第2部　　「あなたの一日」を描いてみよう

いつ、誰と、どこで、何をするか。
カードに書いて、話し合う

模型や図面、完成イメージを手がかりに、
新しい施設での過ごし方を、一緒に考えます。

第1部

未来型図書館の計画と、その舞台裏を知ろう

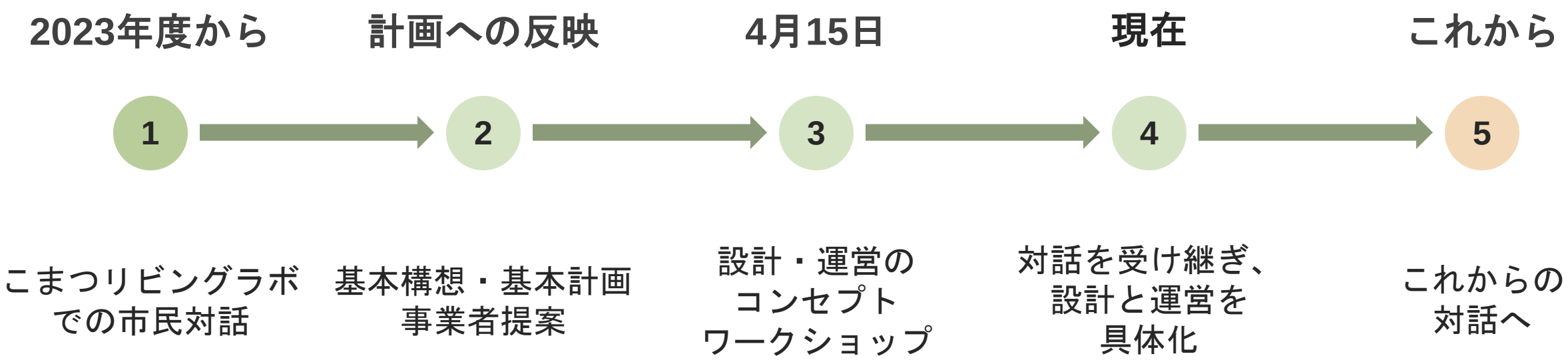
設計・運営の計画と、提案が生まれるまでの物語

「未来のひらく庭」はどう生まれ、どう育つか



設計・運営の計画と、提案が生まれるまでの物語をご紹介します。
後半は、みなさんの過ごし方を一緒に考えます。

0|この計画はどこから来たのか



この計画の出発点には、
市民のみなさんと積み重ねてきた対話があります。

1|映像でめぐる新しい未来型図書館

建物の外から中へ、
新しい施設をめぐってみましょう

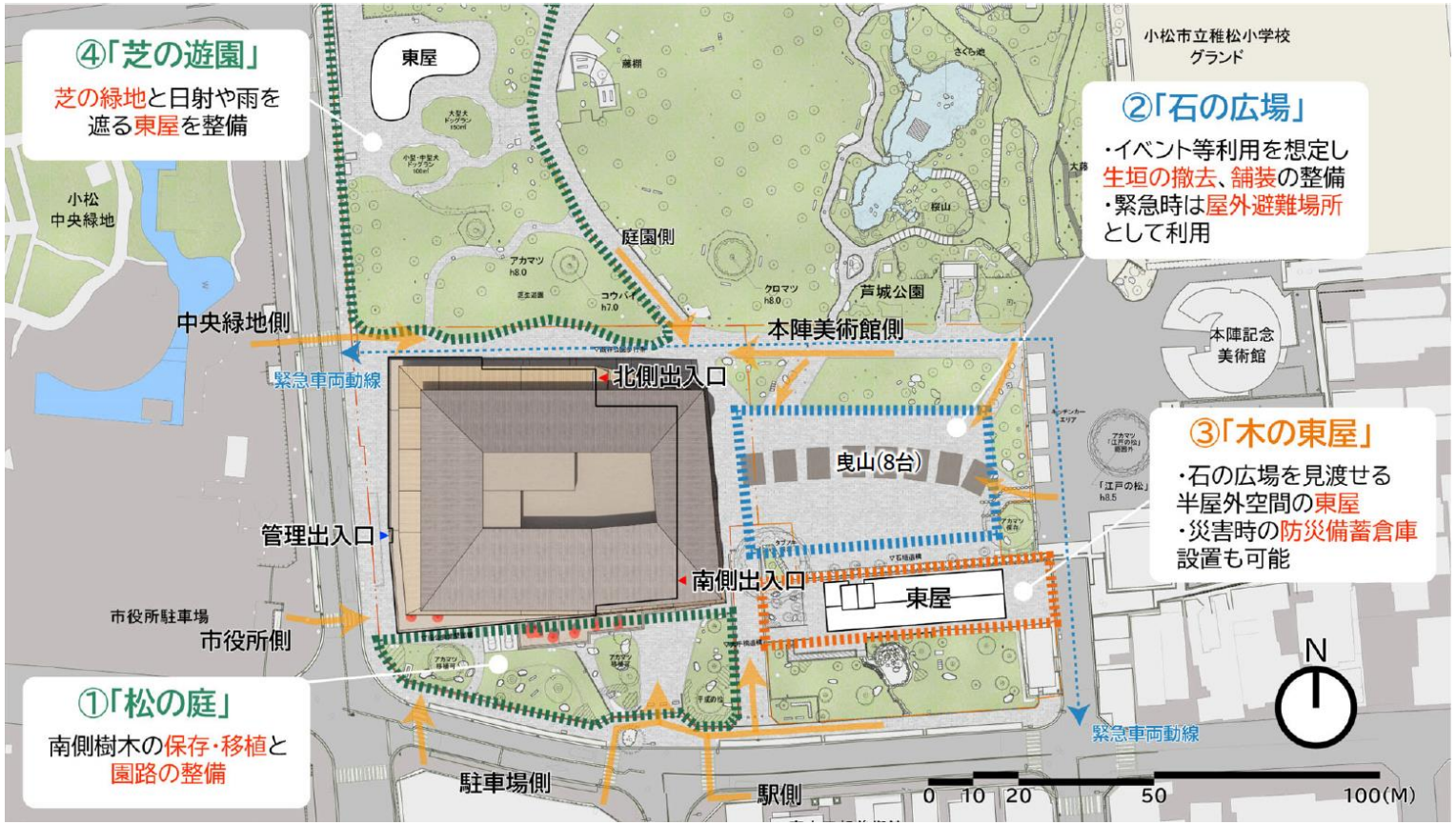
気になる場所や、そこで過ごす自分の姿を思い描いてみてください。

2|現在の計画を歩いてみる



芦城公園とつながり、周辺のまちへと広がる計画です。

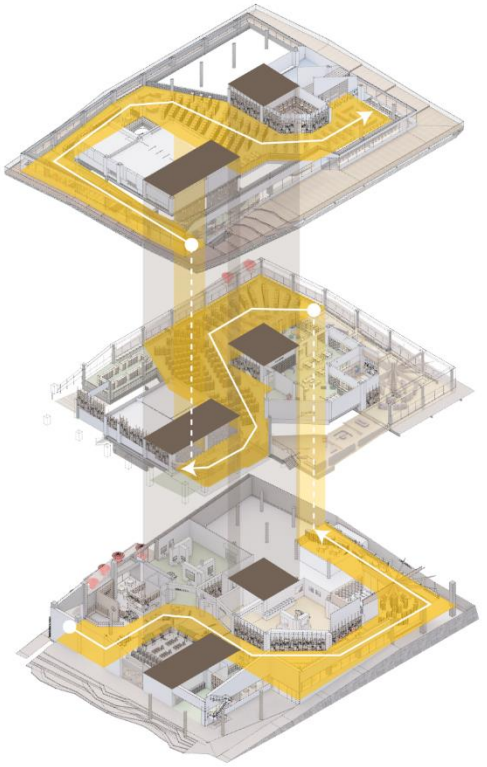
2|現在の計画を歩いてみる



図書館、公会堂、博物館、教育センターをひとつに。
公園と一緒に、さまざまな過ごし方ができる場所をつくります。

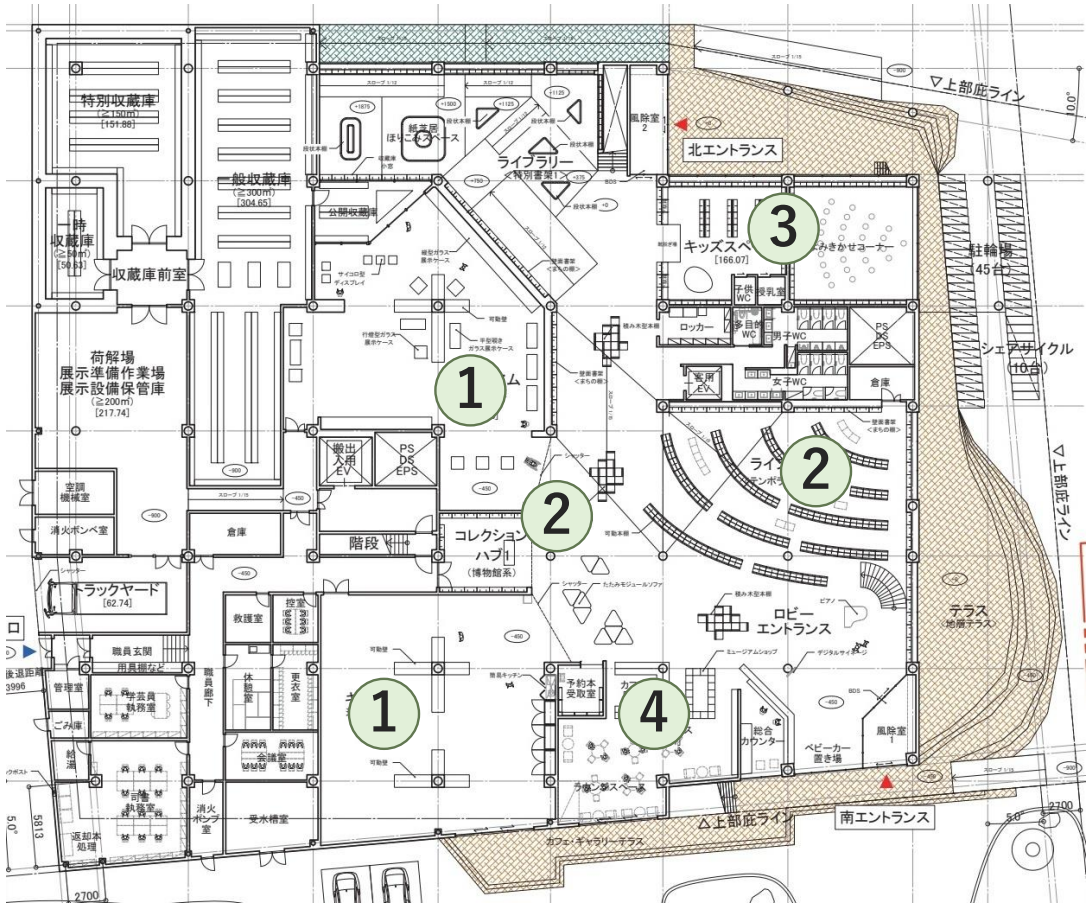
2|現在の計画を歩いてみる





1階から3階まで、一本の道でつながります。

2｜1階：展示や本に出会う



1 **ミュージアム・ギャラリー**

展示を見て、小松の文化にふれる。

2 **コレクションハブ・テンポライブラリー**

ものや本との出会いから、興味が広がる。

3 **キッズスペース**

子どもと本を読み、ゆったり過ごす。

4 **カフェ・物販スペース**

公園の散歩と合わせて立ち寄る。

図面・完成イメージは提案時のものです。

入口の近くに展示やカフェ、子どもの居場所を設けています。

2｜1階：子どもと過ごす・文化にふれる

① ギャラリー



市民が制作にかかわる場所を設ける。

① ミュージアム



展示や資料を通して、小松を知る。

図面・完成イメージは提案時のものです。

日常の読書や遊びのそばで、小松の文化にもふれられます。

2｜1階：子どもと過ごす・文化にふれる

② コレクションハブ



博物館機能と連動した展示や本の貸し出し

② テンポライブラリー



イベントもおこなえるスペース

図面・完成イメージは提案時のものです。

日常の読書や遊びのそばで、小松の文化にもふれられます。

2｜1階：子どもと過ごす・文化にふれる

③ キッズスペース



親子で本に触れあえるスペース

④ カフェ・物販コーナー

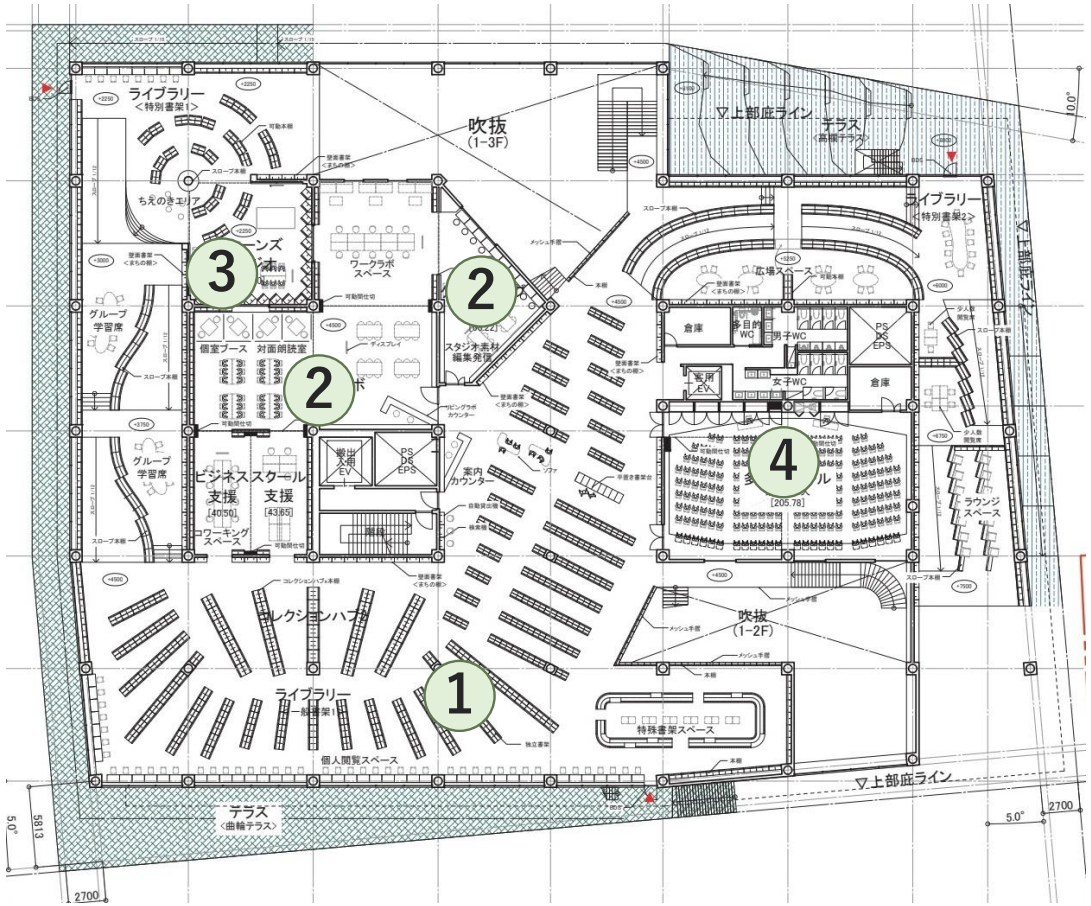


博物館機能や外部ともつながるカフェ

図面・完成イメージは提案時のものです。

日常の読書や遊びのそばで、小松の文化にもふれられます。

2｜2階：本と活動がつながる場所



1 **ライブラリー・コレクションハブ**

本を探し、気になることを調べる。

2 **リビングラボと創作の場**

話し合いや共同作業、制作に取り組む。

3 **ティーンズスタジオ**

仲間と集まり、学びや活動に取り組む。

4 **多目的ホール**

講演や発表など、みんなで集まる。

図面・完成イメージは提案時のものです。

本を調べる場所の隣に、相談や共同作業、発表の場を設けています。

2｜本と活動がつながる場所

① ライブラリー・コレクションハブ



本と展示が混ざり合う空間

③ ティーンズスタジオ



本や人との出会いを誘発する

図面・完成イメージは提案時のものです。

日常の読書や遊びのそばで、小松の文化にもふれられます。

2｜2階：リビングラボと、その周りの活動





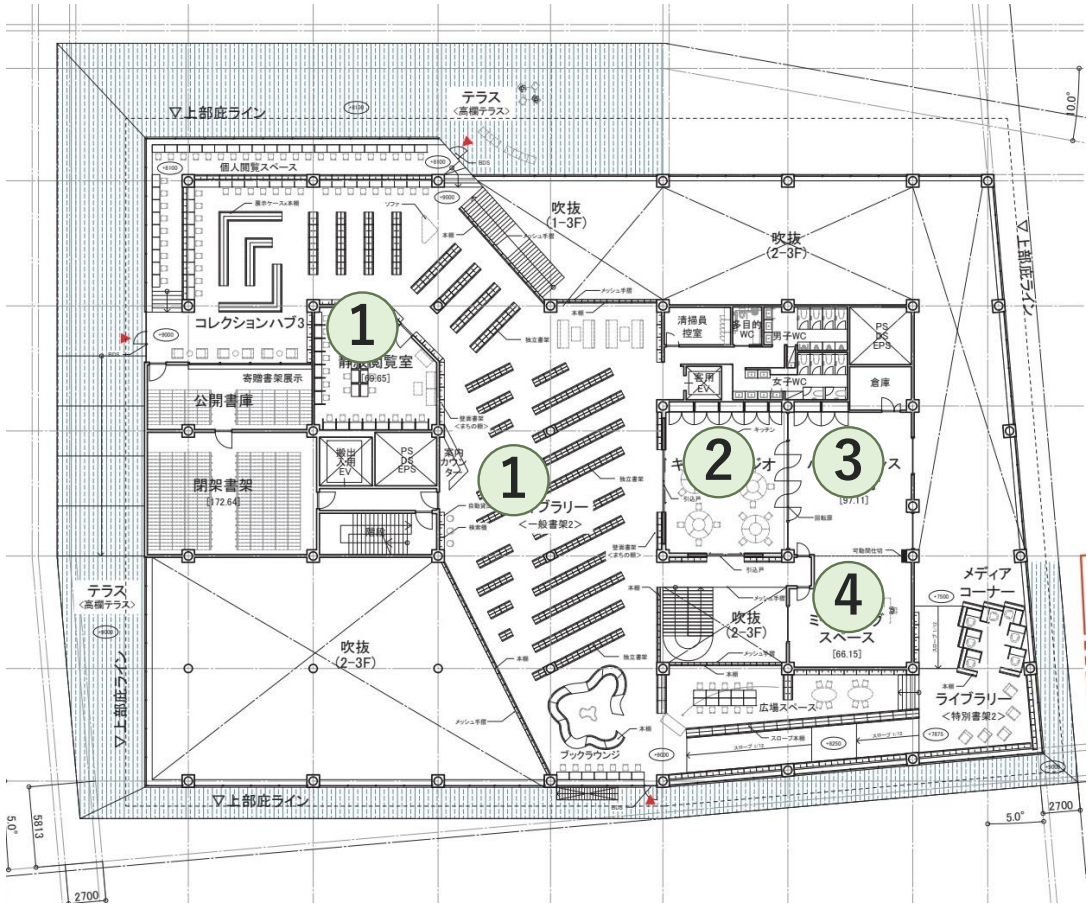
リビングラボでの対話・共同作業

隣には、クリエイティブスタジオと
ビジネス支援・スクール支援の場。

図面・完成イメージは提案時のものです。

間仕切りを開き、活動に合わせて隣り合う場所をつなげて使います。

2｜3階：読書と体験の場



① **ライブラリー・静寂閲覧室**

本を読んだり、静かに集中したり。

② **キッチンスタジオ**

料理をつくり、食を通して交流する。

③ **パフォーマンススタジオ**

体を動かしたり、表現を楽しんだり。

④ **ミーティングスペース**

少人数で集まり、打合せをする。

図面・完成イメージは提案時のものです。

落ち着いて読む場所と、料理や表現を楽しむ場所を用意しています。

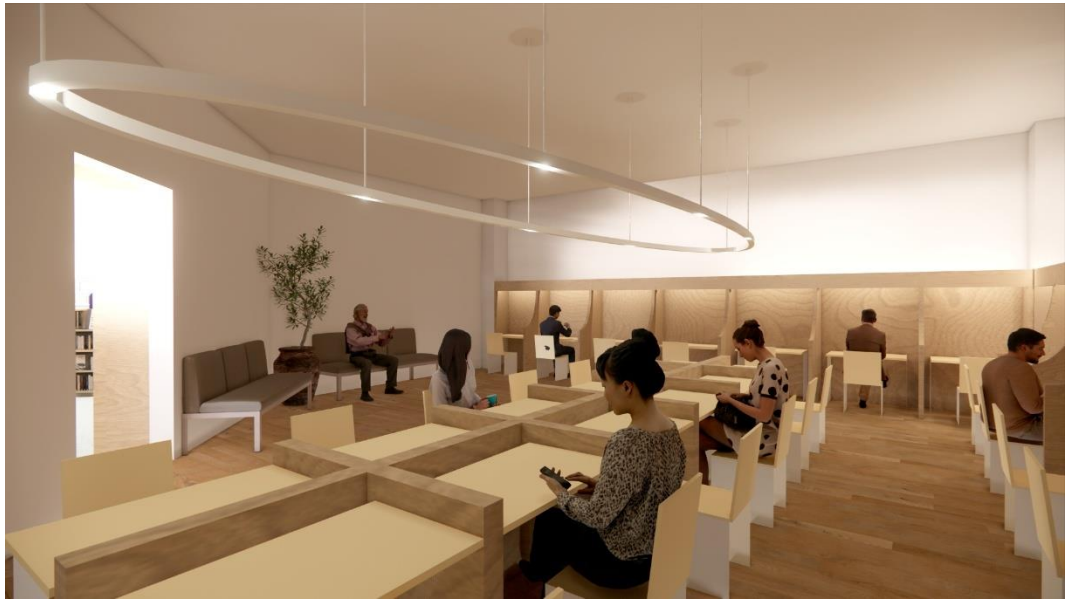
2｜3階：読書と体験の場

① ライブラリー



気分に合わせて読書する場所を選べる

① 静寂閲覧室

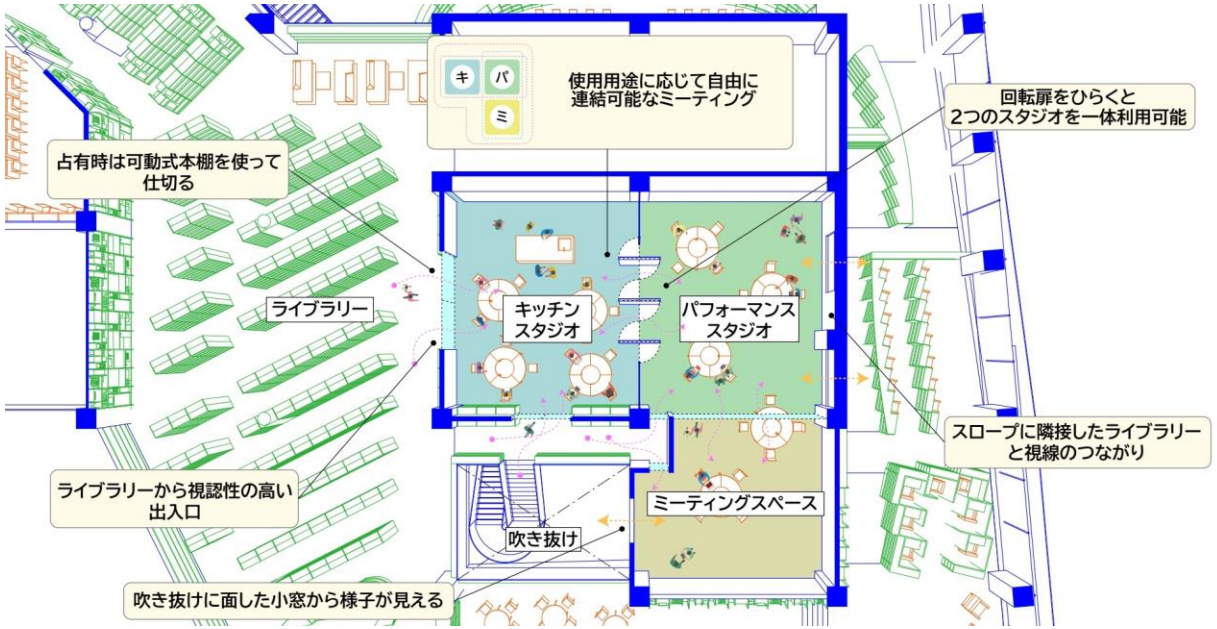


本を読むことに集中できる場所

図面・完成イメージは提案時のものです。

日常の読書や遊びのそばで、小松の文化にもふれられます。

2｜3階：食や表現を楽しむスタジオ





キッチン・パフォーマンススタジオ

間の扉を開くと、一体の空間に。
ミーティングスペースも隣接します。

図面・完成イメージは提案時のものです。

料理と発表など、隣り合うスタジオをつないだ活動も考えられます。

2|現在の計画を歩いてみる







本を読む、誰かと話す、気になることを調べる。
ひとりでも、誰かと一緒でも、それぞれの時間を過ごせます。

3|最初からこの形だったわけではありません







敷地を歩き、公園や周辺のまちとの関係を調べました。

3|最初からこの形だったわけではありません



↑3層を重ねたらどれくらいの大きさになるのか？



↑段々状にして公園側にテラスを設けてみる

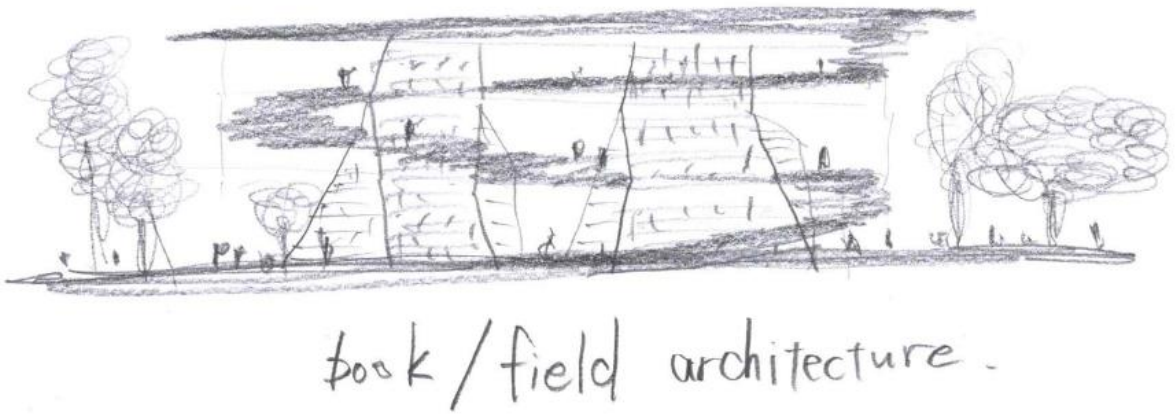


↑L型にして公園との関係が作れないか検討

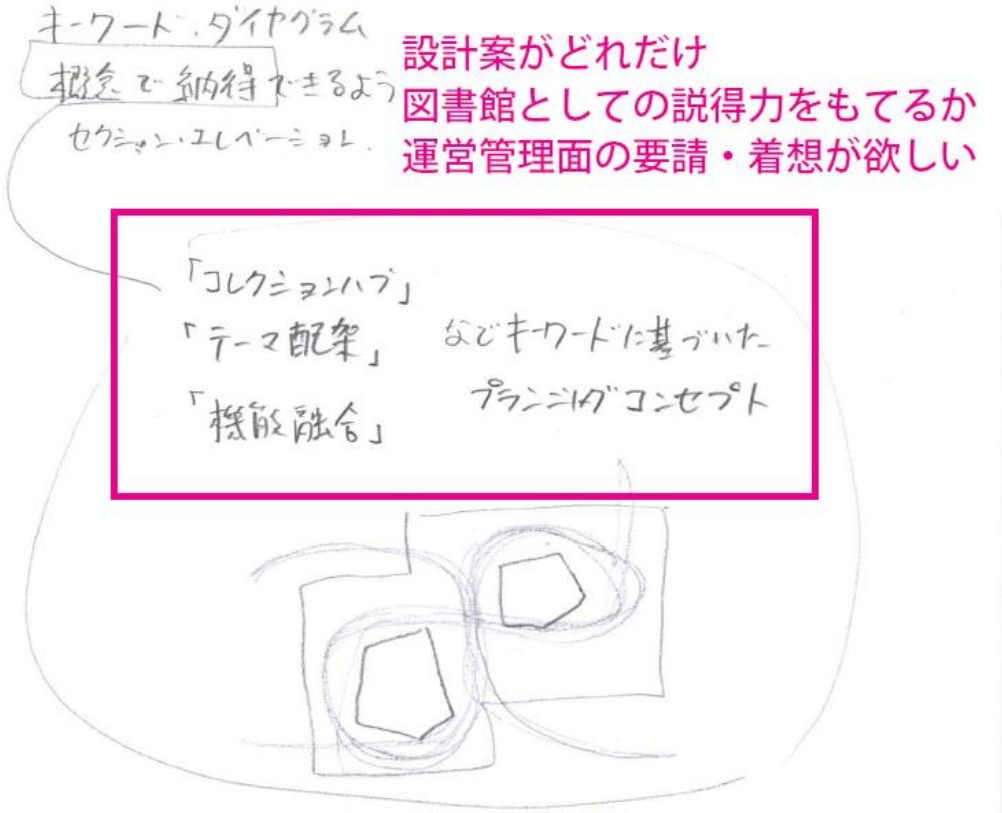


↑屋根をかけてみるとどのように見えるのか

3|最初からこの形だったわけではありません



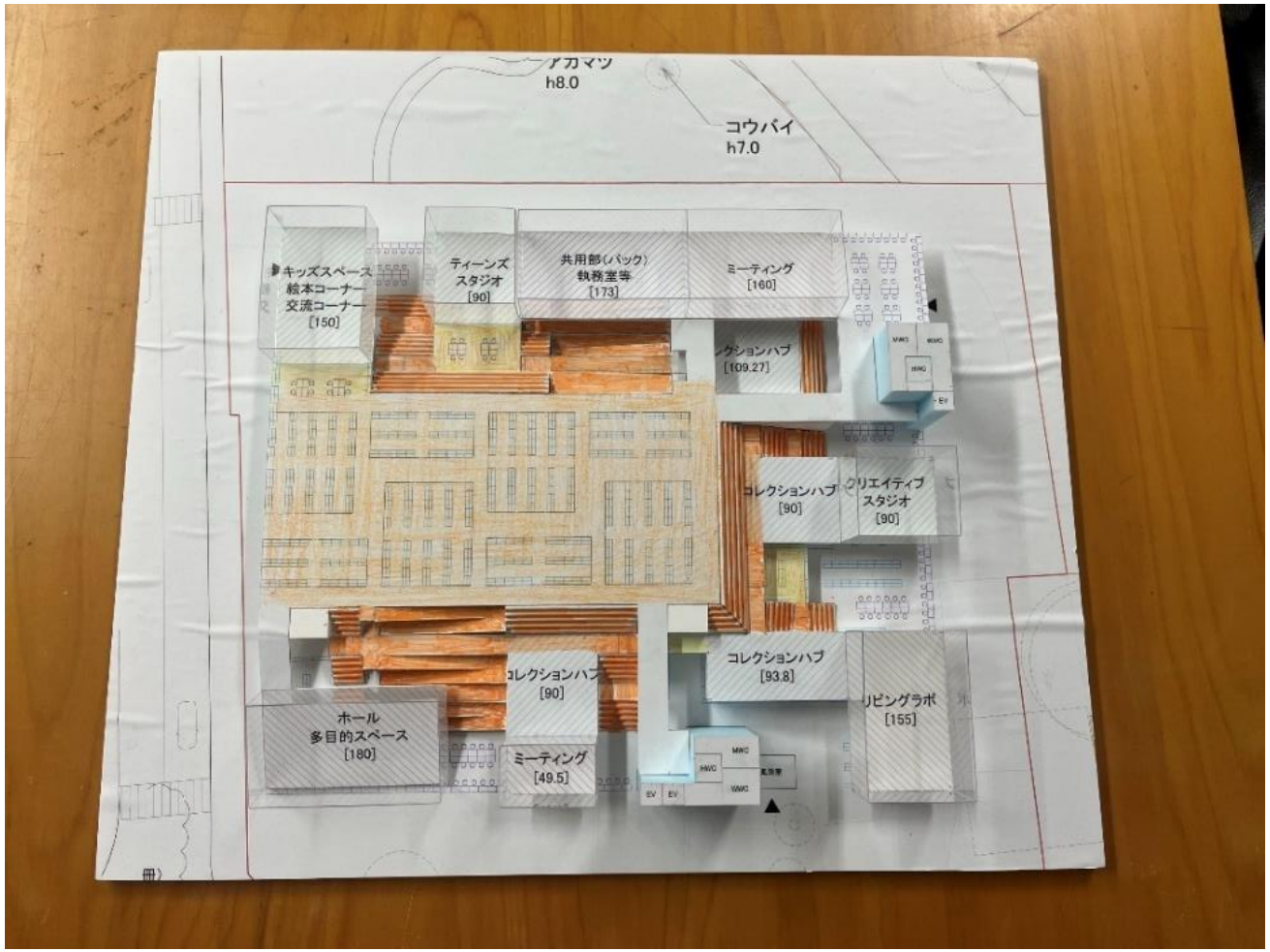
↑スケッチでアイデアを整理。
公園と一体的に利用するために道を連続させてみる。



設計案がどれだけ
図書館としての説得力をもてるか
運営管理面の要請・着想が欲しい

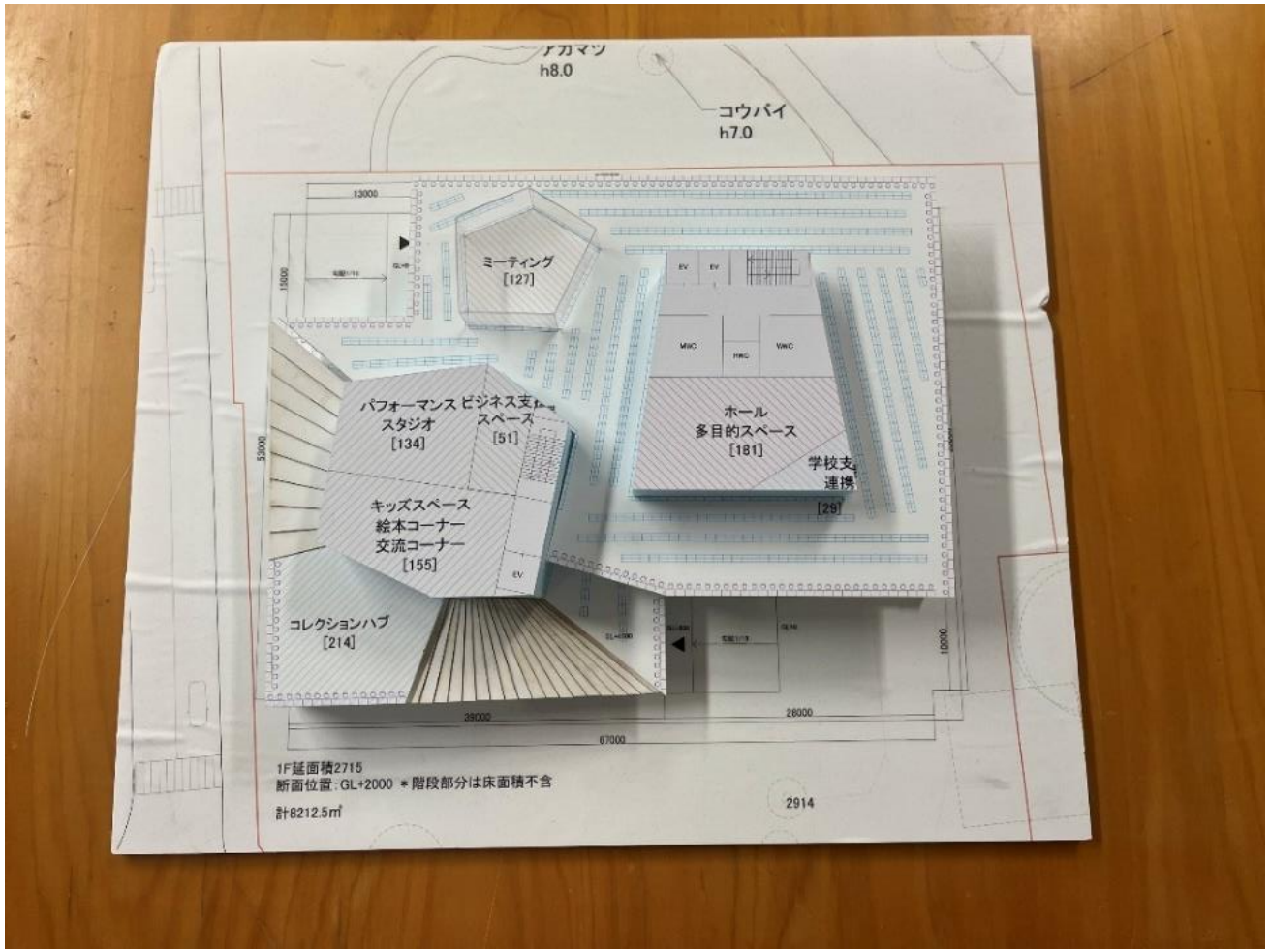
公園と図書館は、どうつながるのか？
敷地を歩き、配置の模型を重ねながら、公園やまちとの関係を考えました。

3|最初からこの形だったわけではありません



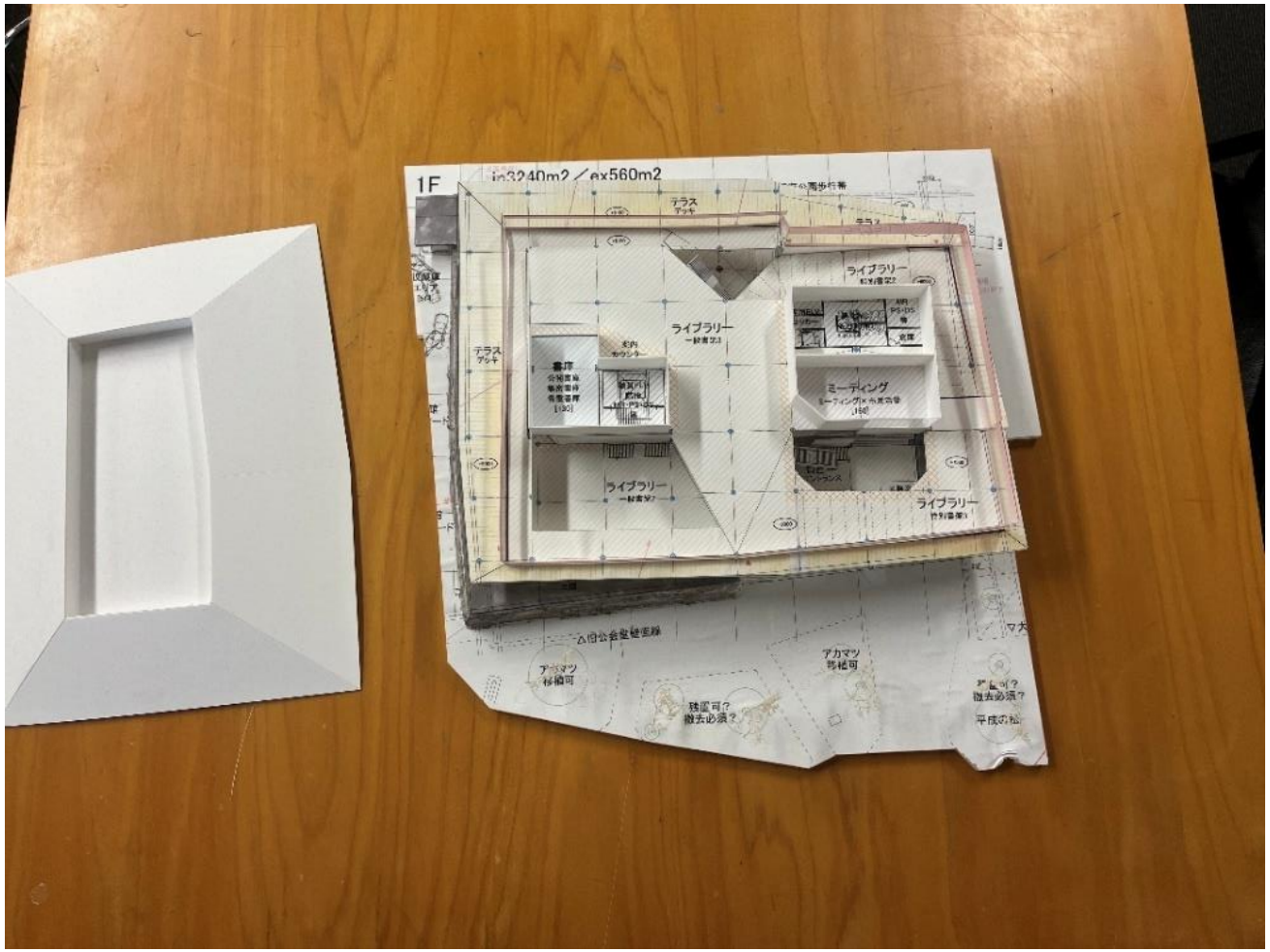
↑初期案①：基壇上の図書館に各機能がつながる

3|最初からこの形だったわけではありません



↑初期案②：スロープの床が施設全体を
つなげる

3|最初からこの形だったわけではありません



↑スタディ模型：スロープ案をさらに
検討してみる

3|最初からこの形だったわけではありません

情報を行動へ（Information into Action）

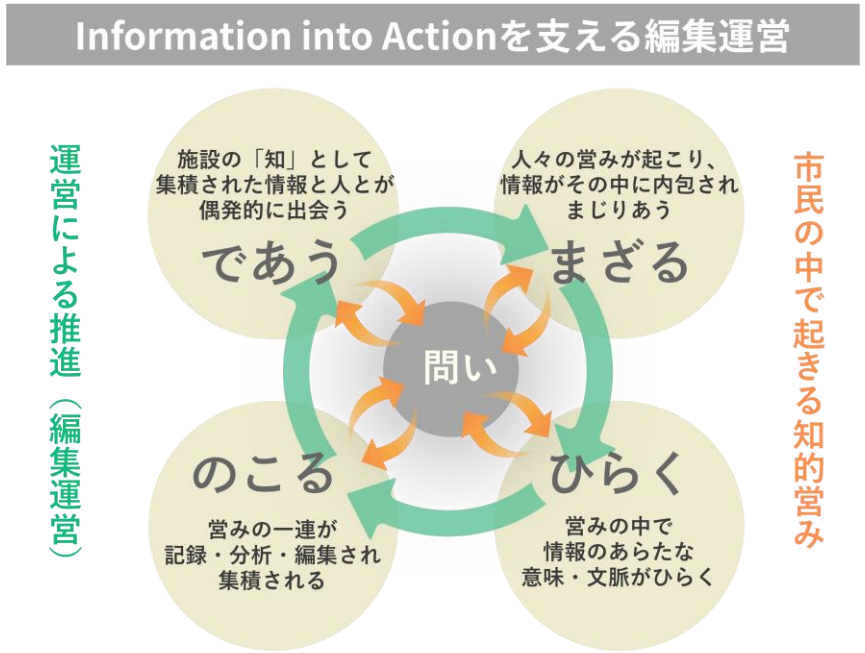
最初の図

気づき・**問い**の変化

Information
情報（本）
→
Communication
対話
→
Action
行動

敦賀「ちえなみき」でおきている日常をイメージ

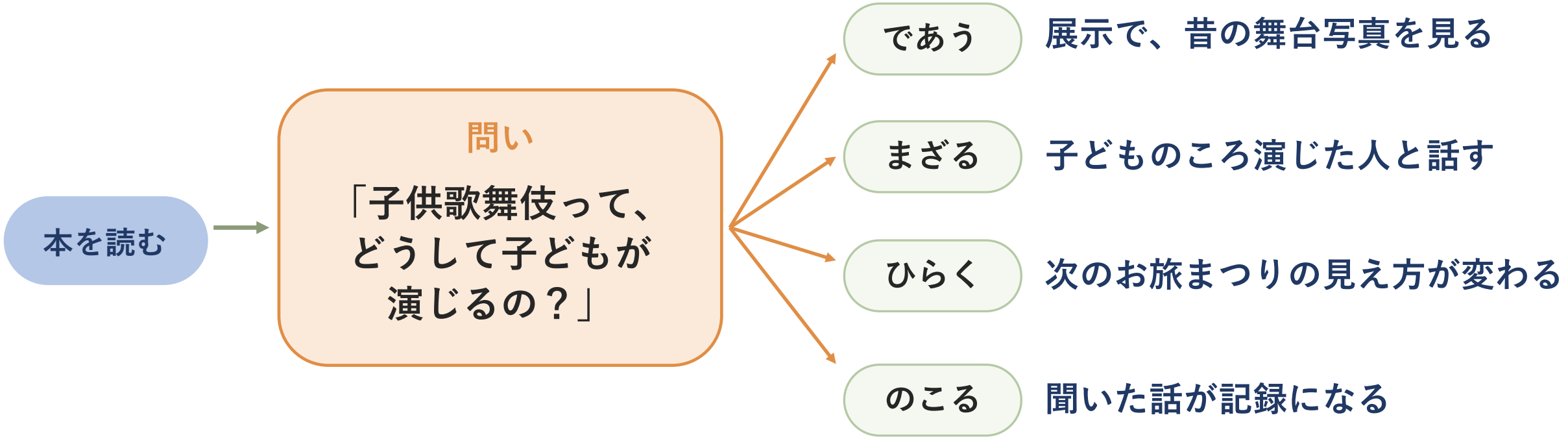
描き直した図



本から発想がひろがった「問い（不思議）」を、活動の中心（キー）に据えました。
どの活動も問いから始まり、また次の問いへと戻ってきます。

3|最初からこの形だったわけではありません

本から生まれた「問い」が・・・



展示から入るか、人に話を聞くか、問い（不思議）の追いかけ方は人それぞれです。
その足あとは記録として棚や展示にのこり、次に来た誰かの問いを生みます。

4|選定後も検証していきます





↑スタディ模型①②：建物形状とテラスの大きさを検討

5|提案チームで共有した「庭」という考え方

この場所で、どのように過ごすか。
この場所を、どのように育てるか。

これまでの市民対話を受け継ぎ、設計・運営のメンバーで話し合いました。
「この場所をどう使い、どう育てるか」を考える中で、
「庭」という考え方を共有しました。

5|提案チームで共有した「庭」という考え方

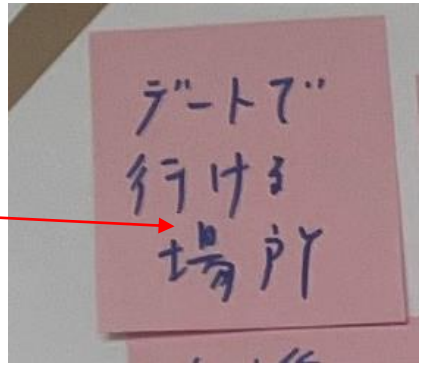


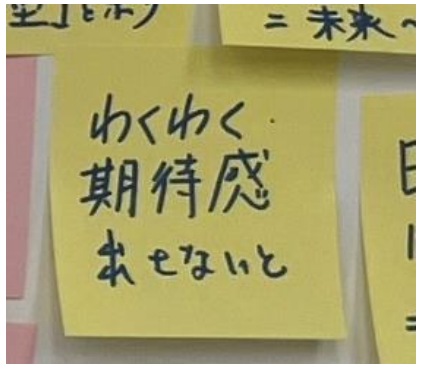


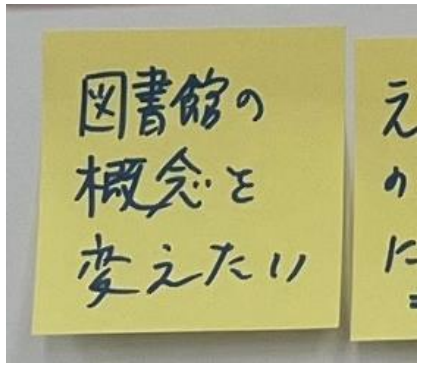
提案チーム全員で集まり、未来型図書館の目指すべきテーマについて話し合いました。

5|提案チームで共有した「庭」という考え方

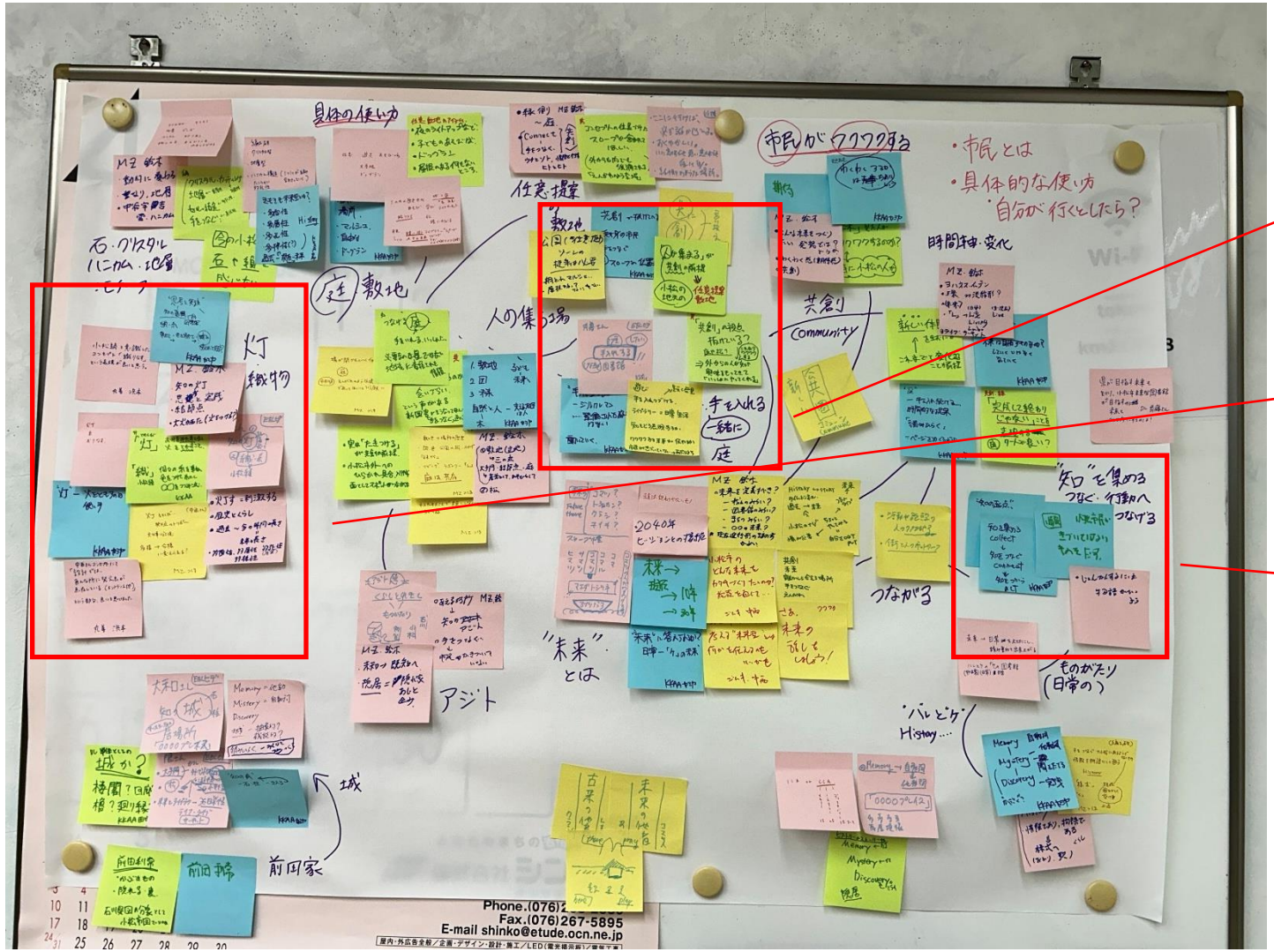








5|提案チームで共有した「庭」という考え方



一緒に手を入れる庭

灯（ともしび）・織物

“知”を集める
つなぐ
行動へつなげる

→たくさんのキーワードが生まれた

6| 「庭」



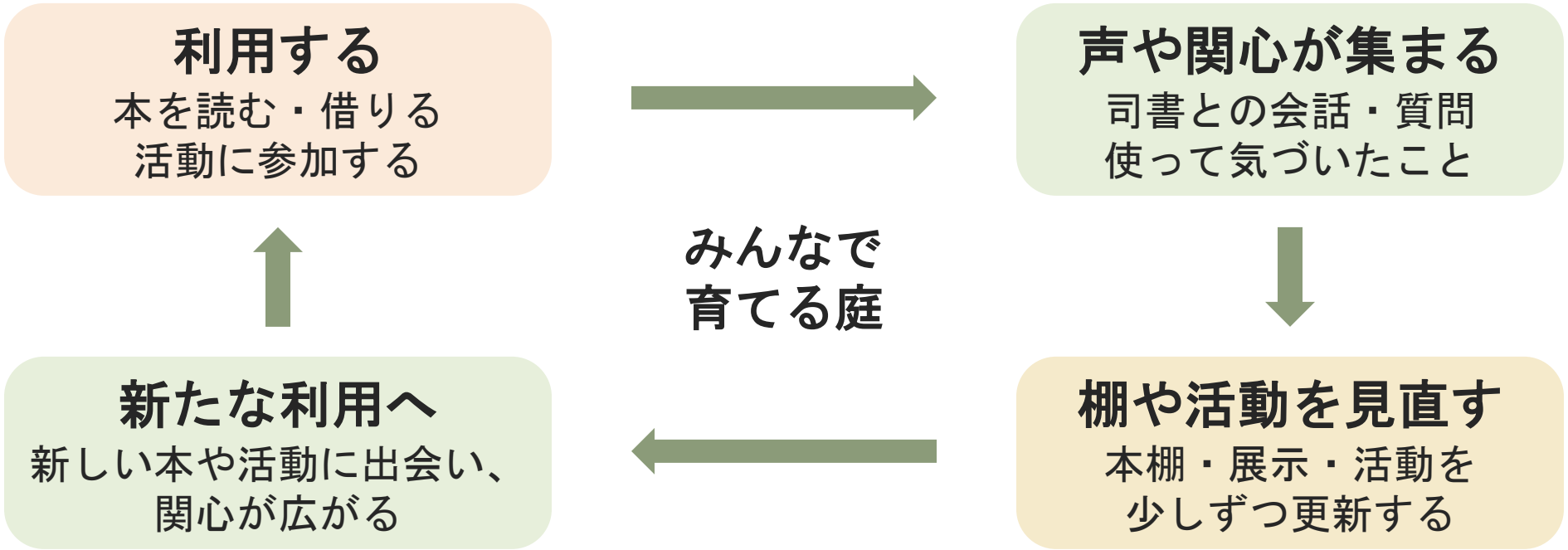


→鑑賞する庭ではなく、家庭菜園のような育てる庭を目指す

使いながら、手入れを重ねていく「庭」。
人の活動や関心が、この場所を少しずつ育てていきます。

6| 「庭」

施設をつかうことが、手入れしていくことにつながる



建物が完成しても、利用と見直しを重ねながら、
「庭」は育ち続けます。

6| 「庭」　-小松の関心から育つ本棚

「小松らしさ」を、どんな言葉であらわすか

最初の仮説 ➡ 問答を重ねる ➡ たどりついた大テーマ

石

大地の素材

九谷焼の原料になる花坂陶石、
城の石垣

重

ものづくり

建設機械に代表される
産業の力

劇

ハレの文化

勧進帳、お旅まつりの
曳山子供歌舞伎

最初は、小松らしさを「石・重・劇」という意味のかたまりでとらえていました。
これらは時代を越えて小松に受け継がれてきた文化の遺伝子（ミーム）です。

6| 「庭」　-小松の関心から育つ本棚

「小松らしさ」を、どんな言葉であらわすか

最初の仮説 ➡ **問答を重ねる** ➡ たどりついた大テーマ

編集学校のメンバーと、金沢と小松を一言ずつ言い比べる

「飾る金沢／**削る**小松」

「見る金沢／**触れる**小松」

「売るは金沢／**創る**は小松」

「磨かれた金沢／**鍛えられた**小松」

小松の側には、「削る」「触れる」のような動きの言葉が目立ちます。
小松らしさは、ものの名前よりも、人の動きや営みにあらわれていました。

6| 「庭」　-小松の関心から育つ本棚

「小松らしさ」を、どんな言葉であらわすか

最初の仮説 ➡ 問答を重ねる ➡ **たどりついた大テーマ**

掘る	石や歴史から、 知恵や情報を掘りおこす	**組む**	木組みのように、 素材を生かし組み上げる	**湧く**	白山や梯川の水のように 創造性があふれ出す
かぶく	歌舞伎のように、 常識をずらし異彩を放つ	**まつる**	祝祭や神話を通して、 日常と非日常をつなぐ	**おそれる**	白山や自然など、 人智を超えたものを敬う
越える	安宅の関や空港のように 境界を越えて踏み出す	**紡ぐ**	石垣や織物のように、 人や文化を結び合わせる	**彩る**	九谷焼のように、 色や感性をまぜあわせる

小松の歴史や暮らしに根を持つ動詞が、テーマ棚のいちばん大きな入口です。
動詞のテーマは、本を読んだあとの「やってみたい」につながります。

6| 「庭」　-小松の関心から育つ本棚

たとえば、「掘る」をテーマに

大テーマ　**掘る**　小松市の石や歴史から、知恵や情報を掘りおこす

中テーマ　**小松市のあしもと**　石、土、鉱物、化石。地質学から彫刻、ジュエリーまで

小テーマ

九谷焼の原料となる石	小松城の石垣	石を掘る機械
通常なら工芸の棚	通常なら歴史の棚	通常なら工学の棚

通常の分類ならば別々の棚にある本が、「掘る」というテーマでつながります。
小テーマは利用や対話をもとに毎年見直し、棚も少しずつ育っていきます。

7|スロープで巡り、とどまる庭



道を巡り、本を手に取り、気になる活動に出会う。
移動の途中にも、立ち止まって過ごせる場所をつくります。

7|スロープで巡り、とどまる庭



本を読む人、話す人、子どもと過ごす人。
日々の小さな活動が、あちこちに生まれる場所を目指します。

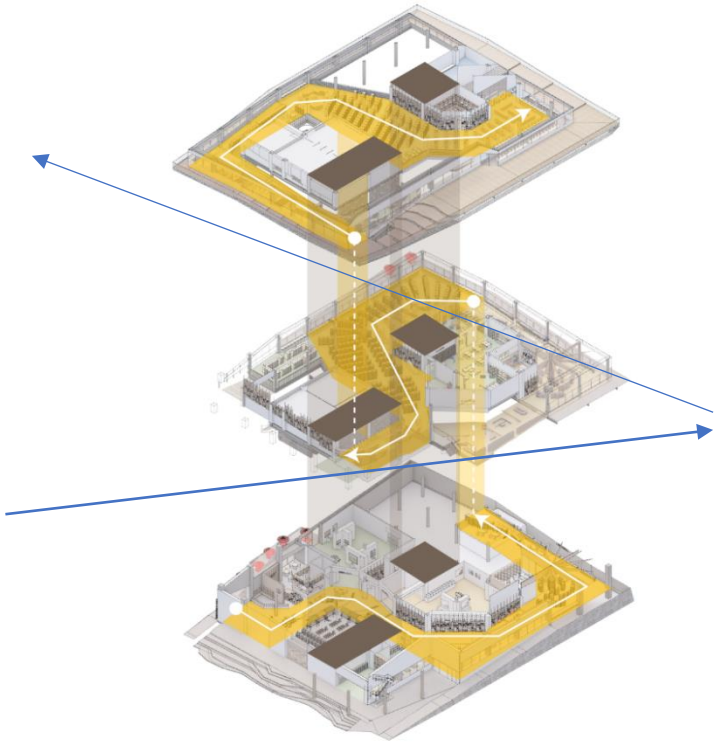
8| どの階にも、関心を広げるきっかけがある



「形にする」



「問い」を立てて、





「調べる」

どの階にも、問い、調べ、形にする活動があります。
1階は「問い」、2階は「調べる」、3階は「形にする」に重心を置き、
それぞれの活動がつながります。

9| 「未来のひらく庭」へ

知識をひらく

本を入口に
関心や問いを広げる

人にひらく

自分のペースで過ごし
人と出会う

活動をひらく

読んで、試して
つくったことを伝える

まちにひらく　芦城公園とつながり、小松の文化に触れる

未来にひらく　使いながら、みんなで育て続ける